流山を愛し 流山に愛された鉄道

流山市民の夢を乗せ、足になった5.7Km!

人と流鉄の一〇二年

発行者
流山市立小山小学校
5年3組
恩地泰蔵
小野悠敬
山根陸
山口侑己
本間怜
発行日 H30、9、17

流鉄は、一九十六年に馬橋駅から流山駅間で運行しました。全長が5、7kmで、片道11分で着くきょりでしたが、交通手段が徒歩か船だったので、便利になりました。もともと、流山発祥のみりんを、西国まで運びたかったこともあり、町民がお金を出し合いました。町民が作った、町民のための「町民鉄道」です。

流山駅は「関東の駅100選」に選ばれています。

流山を愛する駅員さん

花形さん

佐伯さん

流鉄流山線で働く二人の駅員さんは流山のことが大すきです。

一人目の花形(はながた)さんは子どもの時から電車が好きで、流鉄の物知り博士です。学生の頃から流鉄を利用していたので、恩返しをしたいと言っていました。

二人目の佐伯さんは、女性の駅員さんです。流山市に住んでいて、流山市のために働くことができたらうれしいから、流山市民に愛される流鉄で働くことを決めたのだと言っていました。

二人とも、好きなことを職業にしています。しかし、流鉄のことを思い、誰かのために一生懸命働いていました。

ハサミで切る!? 駅のマーク

↑花形さんにインタビュー中

↑ それぞれの駅のマーク

↖ 流星(奥)と流星のデザインの自動販売機

流鉄流山線はパスモやスイカを使えません。切符を買って改札を通ります。改札口では駅員さんが改札きょうを持って切符を切ります。改札きょうは、切符を切るためのハサミで、駅によって、それぞれ形が異なります。昔は、日本のどの駅でも、駅員さんが、一つ一つ切符を切っていました。流鉄は、今でも人とつながっています。

ながれやま 流山
1分
へいわだい 平和台
3分
ひれがさき 鰭ケ崎
2分
こがねじょうし 小金城趾
2分
こうや 幸谷
3分
まばし 馬橋

5.7km 11分

進んでいく流鉄

流鉄流山線は、客車2両、貨物車2両、蒸機車両で走っていました。昭和8年にガソリン客車になり、昭和24年に電動客車になりました。

流山市内には、平成17年につくばエクスプレスが開業し、流鉄の乗客数が一〇〇〇人(一割)ほど減りしました。そのため今では、2両編成でワンマン運転になりました。

流鉄流山線の車両は、西武鉄道から、ゆずり受けたものですが、もともと流鉄の線路の幅が、標準よりせまかったため、広げるための工事をしました。流鉄も今では一〇六七mmの線路の幅です。

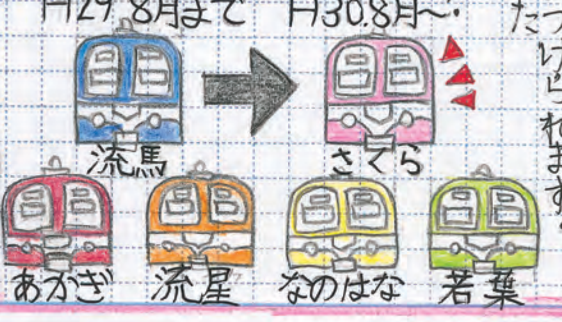
性別変更!! 電車のお色直し

流鉄は電車が全部で5つあります。その全てに愛称がついていて、流山市民の投票で決められました。名前に合った色もつけられます。

平成29年8月まで走っていた「流馬」(色は水色に白帯)が全般検査と塗色変更をします。今回も、市民が名前をつけ、「さくら」に決まりました。車体がピンク色になり、車内のつり革もハートの形になりました。いすのシートもリニューアルされて、平成30年8月23日に運行しました。車内には、流山市のイベントを紹介するポスターや市内の高校の家庭科部の作品がかざられています。

ビフォー!!

アフター!!



編集後記

ぼくたちは、わが町ベストスリーを考えたことがきっかけで流鉄に興味を持ちました。取材をして感じたことは、みんなが協力して成り立っているということです。お金を出し合って線路を作った町民。車両をゆずってくれた西武鉄道。切符を切る駅員さんや、投票して車両の色や名前を決めた市民。このどれか一つでも欠けてしまったら、きっと流鉄は一〇二年もの間、続いていないと思います。

この新聞も、協力して下さる人がいなければ完成することができませんでした。取材に応じて下さった流鉄の社員のみな様、ありがとうございました。

ぼくたちは、流鉄の存在を流山の人だけではなく、多くの人に知ってほしいと思いました。オリンピックで外国の方が来たら、この流鉄に乗ってもらえるようにしたいです。